

1. 目指す学校

- 真面目に努力する生徒が生き生きと活躍できる学校
- 自主・自律の精神を培うことのできる学校
- 生徒・保護者・地域・教職員が誇りを持てる学校

◎教育目標＝目指す生徒像

- すすんで学習に励む生徒
- たくましい体力を身につけた生徒
- 規律と礼儀を重んじる生徒
- すすんで働き、協力しあう生徒

2. 中期的目標と方策

【目標1】望ましい生活習慣の確立

方策：丁寧な生活指導の実施、心と体の健康教育の充実、特別支援教育の推進

【目標2】学力の定着・向上

方策：授業改善と学習評価の工夫、習熟の程度に応じた指導の充実

【目標3】自尊感情の育成

方策：授業や学校行事等における他者との関わりや互いに認め合う活動の充実

3. 今年度の取組目標と方策

(1) 教育活動の目標

- ①真面目さや正義を尊ぶ心を育て、公正な判断力と社会性を身に付けさせる。
- ②授業規律を維持し、落ち着いた環境の中で学習意欲を高める。
- ③学校行事や体験活動を通じて、コミュニケーション能力や豊かな表現力を育成する。
- ④自分や他人を大切にできる精神と、TPOに応じた言動を身に付けさせる。
- ⑤新しい生活様式の中で、楽しい学校生活を通じて心身の健康を維持・向上させる。

(2) 重点目標

<当たり前前かが当たり前前のできる学校>…『凡事徹底』

※キーワードは規律・学力・自己有用感

- 【1】人権感覚と規範意識の確立
- 【2】学びに向かう力の育成と基礎学力の定着
- 【3】自己有用感の育成

(3) 具体的な方策

【1】「人権感覚と規範意識の確立」に向けて

[1]生活指導

※人権と生徒の将来に配慮し、生徒とのコミュニケーションを重視、毅然とした指導と状況に応じた柔軟な対応を併用

※問題行動発生を未然に防ぐ予防的・開発的生活指導の充実

- ①『基本的生活習慣の定着』挨拶と礼儀、時間を守る、話を聴く、正しい言葉遣い、暴力の否定
- ②『全校一致の生活指導の推進』全校共通の方針による指導と個に応じた丁寧な対応、事実の確認と記録、確実な報連相による共通認識と組織的な指導
- ③『不登校生徒への柔軟な対応』定期的な連絡、配布物、テストの受け方、評価、居場所づくりの配慮
- ④『事件・事故・苦情対応』安全確保、事実確認と迅速な組織対応、確実な記録と説明責任、再発防止
- ⑤『外部機関等との連携』平時からの情報共有、必要な場合は躊躇せず支援を依頼

[2]人権教育

- ①『生命尊重と共生の視点』自他を大切にする、いじめや暴力行為、不登校問題の予防的指導
- ②『言語環境の適正化』生徒と教師双方で言葉使い、文書表現等の改善を図る

[3]道徳教育

- ①『道徳の時間の授業改善』「特別の教科」の趣旨を踏まえた計画的な指導
- ②『道徳授業地区公開講座の充実』保護者、地域との連携強化
- ③『全教育活動を通じた意図的な実施』常に心を育てる意識で教育を推進

【2】「学びに向かう力の育成と基礎学力の定着」に向けて

[1]学習指導

- ①『分かりやすく工夫された授業』ねらいの明示、導入の工夫、授業評価の活用
- ②『適正で信頼される評価』指導と評価の一体化、適切な評価材の設定
- ③『少人数指導の充実』習熟の程度に応じた指導方法の工夫・改善
- ④『授業規律の徹底』授業中の生活指導的要素を意識する
- ⑤『学習習慣と家庭学習の推進』家庭学習の記録、宿題の出し方の工夫
- ⑥『基礎学力の定着』個別指導と補充的学習の充実
- ⑦『教科指導に関する研修の実施』若手を中心とした授業研究の実施

[2]進路指導

- ①『三者面談の充実』発達段階に応じて内容を計画し実施
- ②『進路資料の工夫』生徒に主体的に進路を考えさせる指導の充実
- ③『系統的な指導の推進』3年間を通じて段階的に指導を実施

[3]総合的な学習の時間

- ①『職場訪問、職場体験の充実』望ましい職業観・勤労観の育成
- ②『キャリア教育の系統的指導』計画的な課題解決学習の推進

【3】「自己有用感の育成」に向けて

[1]授業や特別活動

※仲間に認められる体験を意図的・計画的に設定し自己有用感を育成

- ①『行事の重点化』体育大会、合唱コンクール等で生徒の主体的な活動を重視
- ②『生徒会活動の充実』生徒会朝礼、生徒総会、自治活動の充実

[2]部活動(運動系、文化系)

※主体的な活動を通じて、努力して自分なりの目標を達成することを体験させる

[3]特別支援教育

- ①『特別支援教室拠点校』特別支援校内委員会を活用した個別支援の充実
- ②『成功体験の積み重ねを意識した指導』スモールステップによる指導の工夫
- ③『外部機関との適切な連携』課題を抱え込まずに組織連携による解決

(4) その他の取り組み

[1] 保護者と地域(自治会等)との連携

- ①『授業公開・保護者会・三者面談の充実』
- ②『地域のボランティア活動への積極的な生徒の参加』

[2]小中一貫教育の推進

※学区小学校2校との連携

4 組織運営

- (1) 校務分掌の適正化…職務や責任の明確化と公平化
- (2) ライン組織による教育活動の計画的な進行管理
- (3) 学年・学級経営の重視…集団の実態を踏まえ、生徒理解を通じた具体的な計画と実施
- (4) 諸会議、事案決定の効率化
- (5) 学校評価の充実…生徒による授業評価、学校関係者評価(保護者、学校評議委員)の工夫
- (6) 人事考課制度(自己申告書)による教職員の人材育成
- (7) 服務事故防止の徹底…体罰、個人情報紛失、交通事故、わいせつ行為、会計事故等

5 目指す教師像

- (1)『親切・丁寧・コミュニケーション重視』生徒、保護者、地域へ、教職員相互も
- (2)『全員一丸での組織対応』各自の努力と組織の総力でよりよい教育ができる
- (3)『認めて褒める指導』教育とは心を育てること
- (4)『チェックと改善』常によりよいものを目指す向上心
- (5)『教育公務員の自覚』サービスの厳正、言動、身だしなみ
- (6)『ライフ・ワークバランス』効率的に仕事をこなし充実した人生を